

EdTech 導入補助金2021

令和2年度3次補正 学びと社会の連携促進事業
(先端的教育用ソフトウェア導入実証事業) 費補助金

効果報告レポート

【事業者名】

EDT00046

シャープマーケティングジャパン株式会社

×

株式会社EDUCOM コンソーシアム

【ツール名】

スタディシリーズ

ロボホン+プログラミングツール

スクールライフノート

【ツールの機能分類】

学習支援・授業支援 (LMS)

発展的な学び

2022年2月

シャープマーケティングジャパン株式会社

個別最適化学習支援システム

スタディ シリーズ
STUDY SERIES

インタラクティブスタディ
Interactive Study 7

学習履歴をもとに、児童・生徒一人ひとりの
理解状況に合わせた学習で、知識の定着を図る。

表現・協働学習支援システム

スタディ シリーズ
STUDY SERIES

スタディ ノート
STUDY NOTE 10

思考力・判断力・表現力・情報活用能力を育み、
主体的に課題解決する力を伸ばす。

RoBoHoN



株式会社EDUCOM

心と学びの記録・振り返り支援システム
スクールライフノート

- 心の天気 / 学びの天気
- 学習ノート / 生活ノート
- 共有ボード
- 学校生活ウォッチャー

日々の可視化 振り返り・気づき 変化の見守り 早期発見・対応

朝や帰りに今の気持ちを
天気に例えて登録

日々の情報を子どもが
客観的に振り返り

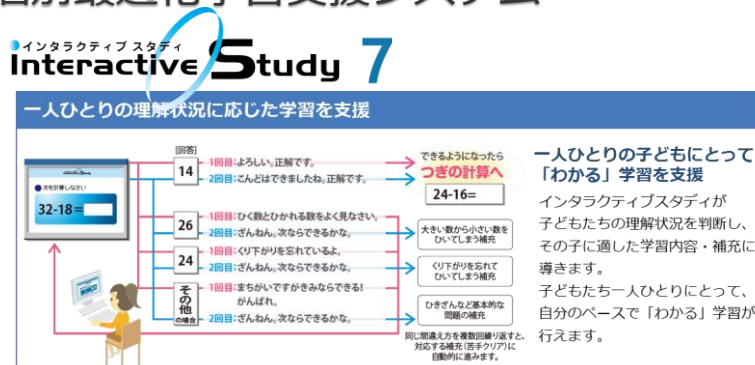
先生が子どもの心情
変化を簡単に把握可能

支援が必要な子どもの
早期発見と指導



■ EdTech ツールの概要（シャープマーケティングジャパン株式会社）

①個別最適化学習支援システム



②表現・協働学習支援ツール

スタディ ノート
STUDYNOTE 10



③ロボホン+プログラミングツール

RoBoHoN



特長

- ①一人ひとりの理解状況に応じた診断補充型の教材で、個に応じた学びを支援
- ②デジタルノートで表現・共有することで情報活用能力と課題解決能力を育成する協働的な学びを支援

活用場面

- ①学級での一斉学習や、授業で学んだ事の確認・振り返りのための個別の学習機会を提供
- ②大型提示装置と学習端末を活用し、導入場面での掲示内容の配布やクラス全員の考えの共有を授業の進行に合わせて円滑に行う
- ③「ロボホン」を使ったプログラミングで、論理的思考を育成。画面上のブロックの組み合わせや、JavaScriptを使った本格的なプログラムにが可能

効果

- ①学習者の理解状況に応じて最適な学習内容や補充を行うので児童・生徒が意欲的に取り組むことができる
- ②自身の意見やクラスみんなの考えを知ること、対話を生み全員参加型の授業を行うことができる
- ③物理的な動きの体験を得ることで意欲的に取り組むことができる。

利用環境

Webアプリケーション（3OSすべてに対応）

利用料

- ・ InteractiveStudy7 1校10,000円/月、児童生徒1名100円/月
- ・ STUDYNOTE 10 児童生徒1名500円/月（すべて税抜）
- ・ RoBoHoN Wi-Fiモデル 120,000円、ビジネス基本プラン 15,000円/年
- ・ ブラウザ型プログラミングツール 30,000円（すべて税抜）

スクールライフノート（心と学びの記録・振り返り支援システム）



かんたん操作で毎日登録
一人ひとりの元気を可視化

心の天気

児童生徒が毎日の気持ちを天気にならせ、「心の天気」として入力。児童生徒が発する心のサインを読み取り、気になる児童生徒の天気を過去にさかのぼって確認することで、細やかかつ迅速なケアにつなげることができます。

1 気持ちを天気に例えて登録

2 パッと手元でわかる

3 心の変化やサインを発見

4 指導・支援につながる

“もっと元気になる”サイクル

導入校での活用例

- 児童生徒への声掛け後援に
- 児童生徒との会話のきっかけ作り
- 不登校傾向の早期発見
- 学校・学校経営のパロメーター

メモ帳活用で「コミュニケーションツール」「振り返りツール」に

児童生徒は天気を登録する際にひとことメモを入力できます。「メモ欄に好きな動物を書いてみよう」「今、はまっていることを書こう」など、メモ欄への入力促すことで、普段あまり積極的にならないう児童生徒への理解が深まったり、会話のきっかけ作りになります。また、学校行事や部活動の振り返りをメモ欄に入力することで「振り返りツール」として活用いただいています。



授業での
自らの学びを可視化

学びの天気

児童生徒が授業ごとに自らの学びを天気にならせ、「学びの天気」として入力。各授業ごとの児童生徒の学びをひとめで把握することができ、個に応じた支援・指導だけでなく、授業の組み立てにお役立ていただけます。

1 一人ひとりの学びの振り返りを可視化

2 天気と振り返りから児童生徒の学びの様子をつかむ

児童生徒が各授業での学びの振り返りを天気登録。各授業ごとにグラフで天気の割合を確認できます。

今日は1時間目（数学）の「あめ」マークが多い

「あめ」や「かみなり」マークから、児童生徒が抱えた「振り返り」やこれまでの傾向をもとに理由にアプローチ。次時の授業づくりのヒントとしてご利用いただけます。

ペアでの話し合いで考えを深めた子どもが増えてきたようだ。もう少しペアでの話し合いを増やしてみよう。

児童者から

子どもと先生が
つながるための
1つとして

「スクールライフノート」導入校の先生方から、「子どもたちの心がよくなるようになった」「自分から話さない子どもの内面がわかり、こちらから声をかけることが多くなった」「心の天気の変化が子どもとコミュニケーションをすることが多くなった」「子ども自身が自分自身を見つめる機会にもなっていて、こうした機能は今までなかったのが貴重」「心の天気入力、一人一台端末の日常活用に無理なく取り組めて満足！」など、多くの活用の声が私のところまで届いています。開発者として、大変嬉しい限りです。

特長

- ・教科に縛られず学校生活全体で活用できる
- ・非認知能力を向上させ「学びに向かう力」を育成

活用場面

- ・朝の「心の天気」登録で日々の端末活用のきっかけ作りに
- ・授業の振り返り登録で学びの記録を蓄積
日常的なキーボード操作練習の機会も創出

効果

- ・天気から気持ちの変化が見える化するので、変化に合わせた声かけなどに活用できる
- ・天気や振り返りから、自分を客観視しコントロールする力（非認知能力）を向上させて、「学びに向かう力」を育む

利用環境

Webアプリケーション（3OSすべてに対応）

利用料

- ・児童生徒1人 月額180円（税抜）

■学校等教育機関の抱える課題

【課題】

本事業では、シャープマーケティングジャパン株式会社が開発した、「interactiveStudy 7」によって児童生徒の一人ひとりの学習進度や理解度に応じて、最適な学びの環境を提供し、「STUDYNOTE10」によって、主体的に学びを続けられる環境を実現する。さらにロボホンを活用したプログラミング学習を行うことによって、順序立てて論理的に考え、結果を出していく力の育成を支援する。また、株式会社EDUCOMが開発した「スクールライフノート」で児童生徒が自身の心情や学校生活の活動等を簡単な操作で記録することや、日々の記録を基に、個別のケアが必要な心情変化の気づきや、心の成長を可視化することができる。これらを活用する事により、個に応じたきめ細やかな支援を行うことで、学びに向かう力の育成を支援し、下記、課題について検証した。

課題 1. 個別最適化を支援する学びの環境構築による、全ての児童生徒への学習機会の提供

課題 2. 双方向授業の導入による、クラス全員で協力しあう課題解決力・創造力の育成

課題 3. 自らを見つめ、コントロールする力（非認知能力）の向上による、学びに向かう力の育成

課題 4. 自分自身を客観視するメタ認知の育成を図り、自らの行動を変容させ「学びに向かう力」の育成

○利用校における活用事例

・インタラクティブスタディ

学級での一斉学習や、授業で学んだ事の確認・振り返りのための個別の学習として活用

- 学校だけでなく家庭でも学習に取り組む事が可能となり、より多くの学習機会を得ることができる
知識を習得し理解する喜びを得ることで、主体的に学ぶ力の育成が期待できる
感染症対策のための休校措置に伴い、宿題として利用するケースが多い

・スタディノート

クラス全員で課題に取り組む学習スタイルの機会を増やすことができる

- 他者の意見や考え方の多様性に触れることで、新たな解決策を創造する力を育成
協働学習の前後で意見の変容や考えの移り変わりを把握する

・ロボホン＋プログラミングツール

順序立てて論理的に考え、結果を出していく力の育成を支援

- ブロック型のプログラムなので、子どもたちにも簡単に入力できる。

○利用校における活用事例

・スクールライフノート（心の天気）

朝の会・帰りの会で「朝」「帰り」の「心の天気」を登録

→ 多くの学校が朝・帰りの準備ができたなら端末を自分で起動して登録する

低学年は「グループログイン」を使って教師用端末から登録するクラスも

朝の天気登録後は端末を保管庫に戻さず、そのまま授業に利用するケースが多い

・学びの天気、学習ノート（振り返り）

授業終盤のまとめ後にその授業の天気と振り返りを登録する

→ 振り返りは低学年は筆記入力、中学年以降はキーボード入力に登録している

時間がない場合は天気の登録のみ、文字入力が難しい場合はノートに書かせるなど

状況に合わせた運用も見られた

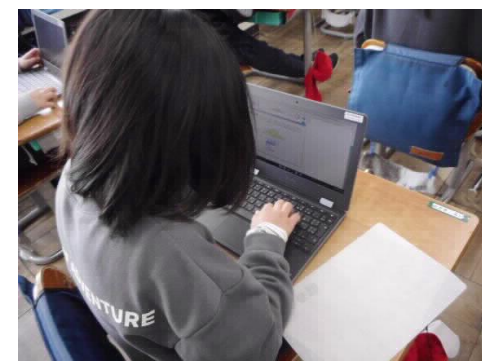
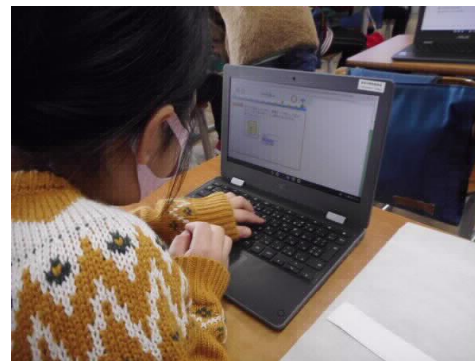
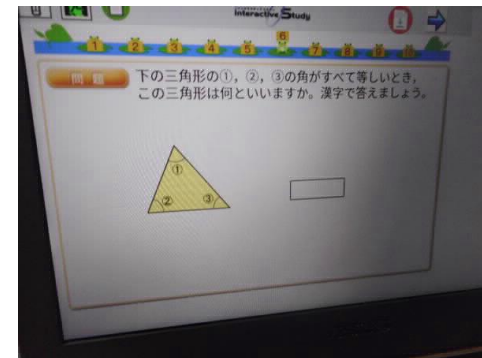
■ EdTech導入補助金2021における活用事例

1. インタラクティブスタディ

●実践内容

山本小学校では、清掃後 13:40～13:55 の15分間、ドリルの時間を日課に位置付けています。3年生では、算数の復習をインタラクティブスタディを用いて行っています。

- ①自分に取り組みたい単元を選んで行う時間
- ②その日の授業で扱った内容を復習したり、深めたりするために同じ問題に取り組む時間
- ③C R Tを受けること事前に子どもたちに知らせ、ドリルをする意欲を喚起して各自で苦手なところに取り組む時間



■ EdTech導入補助金2021における活用事例

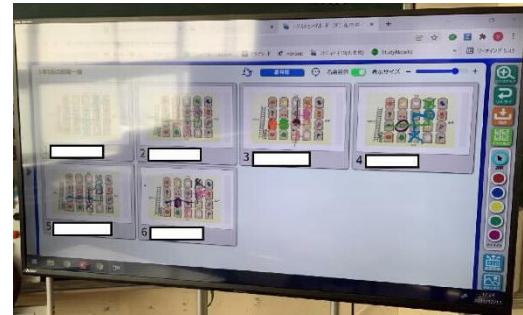
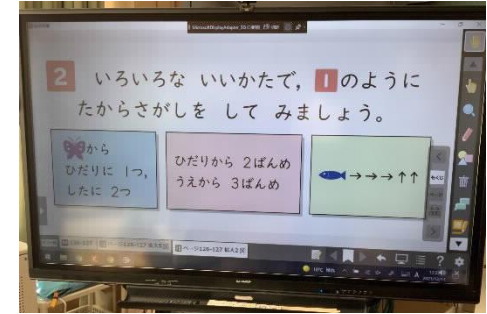
2. スタディノート

●実践内容

EdTech ツールを活用して学校等教育機関の課題をどのように解決したか。

【1年生 算数「もののいち」】(千栄小学校)

- ・宝がある位置を、示された言い方を使って言い表したり、宝の位置を見つけたりする活動に使用した。回収した答えをみんなで見比べ、お互いの答えを確かめ合った。

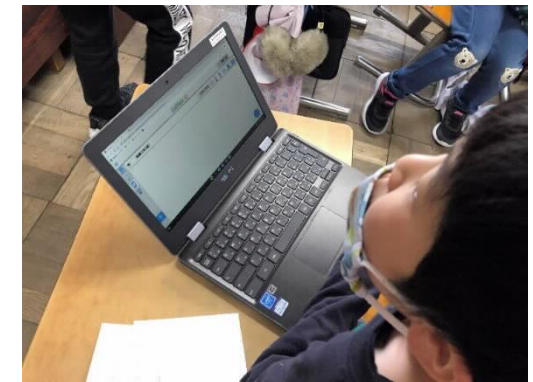
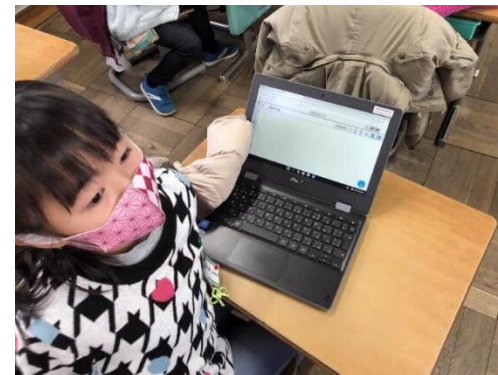


【1年生 国語】(鼎小学校)

- ・導入場面で前時の板書を共有し、簡単な復習を行うことに使った。児童は、前時と本時のつながりをよりわかりやすく簡単に意識することができていた。

【1年生 道徳】(鼎小学校)

- ・「今と昔どちらがいい？」という質問に対する答えを一人ひとり自分の端末に入力した。全員が答えることができる簡単な質問でのスタディノートは、かなり有効であった。



■ EdTech導入補助金2021における活用事例

3. ロボホン+プログラミングツール

● 実践内容

出会い・導入



- 10月中旬, RoBoHoN7 人が上久堅小にやって来た。
- 先ずは職員にご挨拶 (校長先生が特にお気に入り)
- 11月: 人権月間の中の朝の校長講話にて全校に紹介
- 子どもたちも大盛り上がり!



- 紹介後, RoBoHoN と遊ぶために校長室を訪れる子どもたち
- あと 6 人の兄弟の名前を, クラウド型グループウェア G-Suite の Form より募集。

- 全校児童からの回答の結果, 6 人の名前が決定!



(学習カードより)

ロボホンとプログラミングを学ぼう

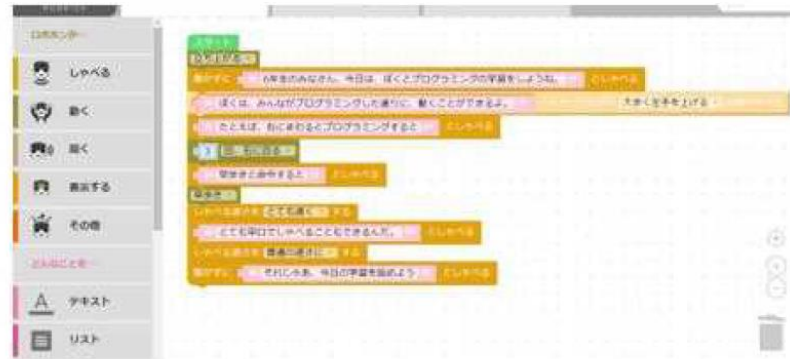
名前 ()

プログラミングとは、

プログラムを作ること、プログラミングといいます。プログラムとは、コンピューターへの指示です。コンピューターは、何らかの指示がないと動きません。例えば、年賀状を作るために、PCの電源を入れ、年賀状作成ソフトを立ち上げて年賀状を作るために、たくさんの指示を出します。この指示もプログラムです。

ロボホンにできること

- 1 シャベる
- 2 動く
- 3 聞く
- 4 その他



<ミッション1>

座っているロボホンを立ち上げらせ、自己紹介をして、座らせよう。

<ミッション2>

座っているロボホンを立ち上げらせ、ダンスをして、座らせよう。ダンスをするときは、声の指示で踊るようにプログラミングをしよう。

<ミッション3>

ロボホンの近くに置いてある本の所まで歩かせ、本をみつけたら、本の名前を覚えてもらおう。途中、の進行方向を、一度はかえてみよう。

<ミッション4>

自由にプログラミングをして、色々な動きをさせてみよう。

4. スクールライフノート

●実践内容

朝の会の中に、「心の天気」を実施する時間を位置づけ、入力を行った。

クラスによっては、帰りの会にも実施した。

また、「学校生活ウォッチャー」から、児童の心の天気を確認した。

雨が Continuing している子どもに対してフォローをしたり、普段の様子では分かりにくかった行事前の緊張や休み時間のトラブルなど、心の天気のコメントから適切に対応した。

クラスごとに「公開」「非公開」「児童による学習ノートの公開状態の変更を許可」のいずれかを各クラスの担任から聞き取り、係が「学校管理」から設定を行った。

学習ノート

感染症対策のための休校措置に伴い、毎朝の心の天気入力を家庭学習の課題とした。担任が児童の状態を把握することと、児童の生活リズムを一定にする意図で行ったが、担任からのコメントができない点や、児童間での共有ができないことが、休校期間が進むにつれて問題となった。そこで、学習ノートに朝の天気とコメントを入力する試みを始めた。「学校管理ログイン」から、時限に「朝の会」を追加し、グループ作成時の学習ノート初期状態も「グループに公開する」に変更した。こうすることで、児童の入力に対してのコメントや児童間での共有が可能になった。



■ 補助事業において実施したサポート内容内容（シャープマーケティングジャパン株式会社）

○実施したサポート内容

- ・ 初期設定、サーバー構築支援・・・ロボホンの初期設定、スタディシリーズサーバー構築作業
 - ・ 初期アカウント設定支援・・・教職員情報および児童生徒情報の登録や各種初期設定作業
 - ・ 教職員向け電話サポート・・・コールセンターによるシステムの操作や活用方法の問合せ対応
 - ・ 学校向け導入研修会・・・システム概要や基本操作の説明、活用事例の共有（オンライン研修）
- ◎ 月次レポートの提出・・・毎月の利用状況や学習の多い教材、つまずき傾向等をレポートで提供

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
〇〇小学校	0	0	10	0	13	4	27
〇〇小学校	0	0	53	199	5	37	294
〇〇小学校	0	0	0	0	0	1	1
〇〇小学校	0	0	0	289	0	0	289
〇〇小学校	8	485	37	87	354	728	1699
〇〇小学校	139	0	2	0	2	0	143
〇〇小学校	0	0	0	0	0	0	0
〇〇小学校	0	17	8	56	19	44	144
〇〇小学校	0	0	0	0	1	0	1
〇〇小学校	0	22	117	23	1	95	258
〇〇小学校	142	0	0	128	0	6	276
〇〇小学校	0	0	0	0	0	0	0
〇〇小学校	0	71	0	114	0	0	185
〇〇小学校	0	7	288	42	1	6	344
〇〇小学校	308	1	112	3	38	3	465
〇〇小学校	1	0	0	1	28	1	31
〇〇小学校	0	153	285	0	5	0	443
〇〇小学校	4	0	0	0	0	0	4
〇〇小学校	0	0	0	0	0	0	0
学年合計	602	756	912	942	467	925	4604

1か月間の学校別ログイン数

	1年	2年	3年	計
〇〇中学校	9	9	28	46
〇〇中学校	5	3	21	29
〇〇中学校	0	6	0	6
〇〇中学校	29	0	0	29
〇〇中学校	0	3	14	17
〇〇中学校	83	59	83	225
〇〇中学校	1	1	2	4
〇〇中学校	198	12	19	229
〇〇中学校	0	0	0	0
学年合計	325	93	167	585

小学校合計	4604
中学校合計	585
計	5189

小学校						
教科	教材フォルダ	教材名	誤答パターン	誤答人数	学習人数	割合
算数	Study21 4年	がい数	「～の位で四捨五入をする」場合に、四捨五入をする位を間違えてしまう	42	102	41.2%
算数	Study21 6年	比例と反比例	「一方の量が増えれば、他方も増える」というだけで比例だと考えてしまう	41	106	38.7%
算数	基礎 2年	かけ算	乗法の式で表すときに、「1つぶんの大きさ」と「いくつぶん」を取り違えてしまう	78	230	33.9%
算数	Study21 4年	小数と整数のかけ算	積の小数点をうつ位置を間違えてしまう	18	55	32.7%
算数	Study21 3年	分数（3年）	分母は正しいけれど、分子に入る数をまちがえてしまう	14	52	26.9%

小学校算数のつまずき（誤答パターン）の多い教材

中学校						
教科	教材フォルダ	教材名	誤答パターン	誤答人数	学習人数	割合
英語	基礎 時制	現在進行形	ing形の作り方を間違えてしまう	23	54	42.6%
英語	基礎 時制	現在進行形	be動詞またはing形のない文を現在進行形と考えてしまう	21	54	38.9%
英語	基礎 時制	現在進行形	主語と合わないbe動詞を用いてしまう	19	54	35.2%
英語	基礎 英語文法	代名詞（基本）	I、you、this、thatの使い分けを間違えてしまう	18	53	34.0%
英語	基礎 英語文法	代名詞（基本）	I、you、this、thatの意味を間違えてしまう	11	53	20.8%
英語	基礎 英語文法	代名詞（基本）	my、yourの使い分けを間違えてしまう	11	53	20.8%

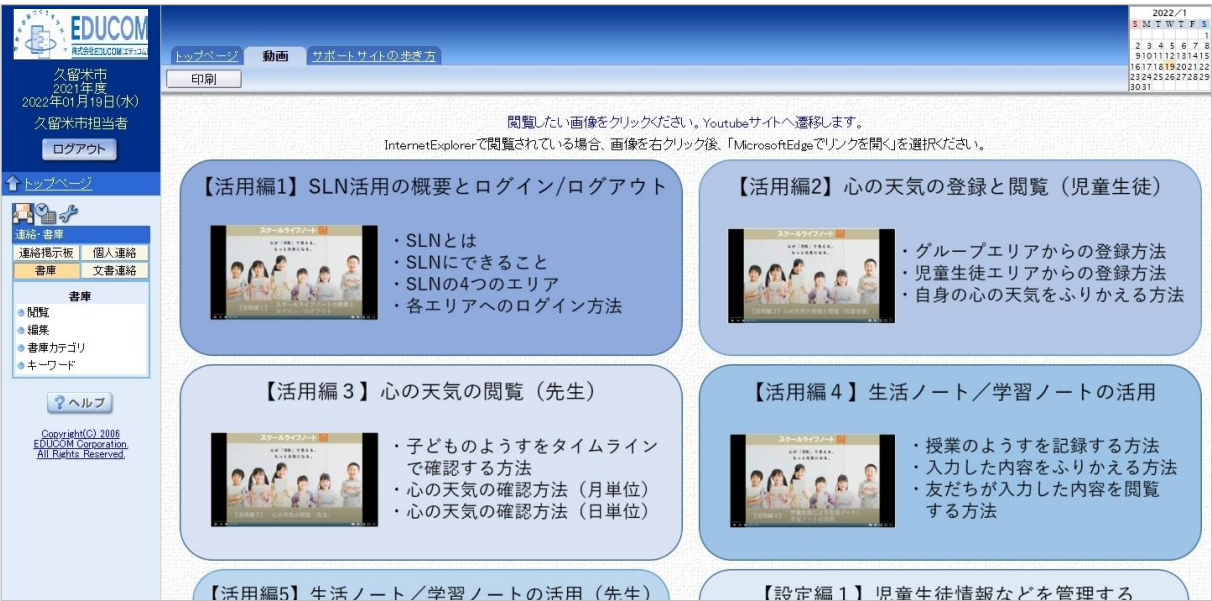
中学校英語のつまずき（誤答パターン）の多い教材

※サポート体制 電話問合せは弊社ヘルプデスク（平日9～18時）にて受付および対応（4名体制）

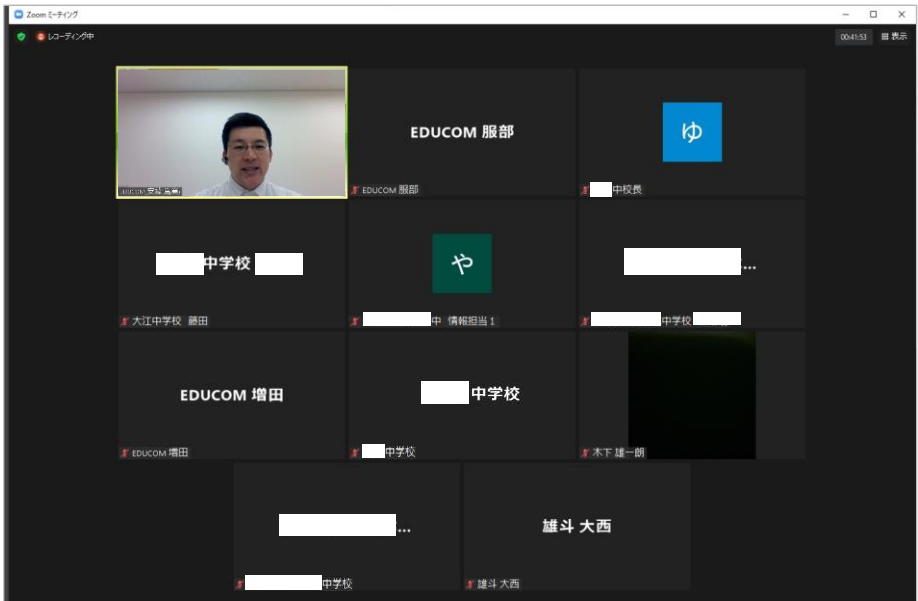
■ 補助事業において実施したサポート内容概要（株式会社 EDUCOM）

○実施したサポート内容（・：通常のサポート、★：EdTech特別の対応）

- ・ 初期設定支援 教職員情報および児童生徒情報の登録や各種初期設定作業
- ・ 教職員向けヘルプデスク コールセンターによるシステムの操作や活用方法の問合せ対応
- ★ サポートサイト開設 研修動画や操作マニュアル、活用事例資料等の提供
- ・ 学校向け導入ガイダンス システム概要や基本操作の説明、活用事例の共有（オンライン研修・各校1回）
- ・ 教育委員会向けガイダンス システム概要や基本操作の説明、活用事例の共有（オンライン研修・自治体1回）



サポートサイト（動画マニュアル部分）



学校向けガイダンス（オンライン）

※サポート体制 主担当2名・自治体担当9名、電話問合せは弊社ヘルプデスク（平日9～18時）にて受付および対応

■ EdTech導入補助金2021における導入実績

学校等教育機関名：飯田市教育委員会 （長野県飯田市大久保町2534）

学校数 ： 小学校 19校 中学校 9校 計 28校

クラス数： 小学校 252クラス 中学校 120クラス 計 372クラス

利用者数（教職員）： 小学校 339名 中学校 220名 計 559名

利用者数（児童・生徒）： 小学校 5,107名 中学校 2,764名 計 7,871名

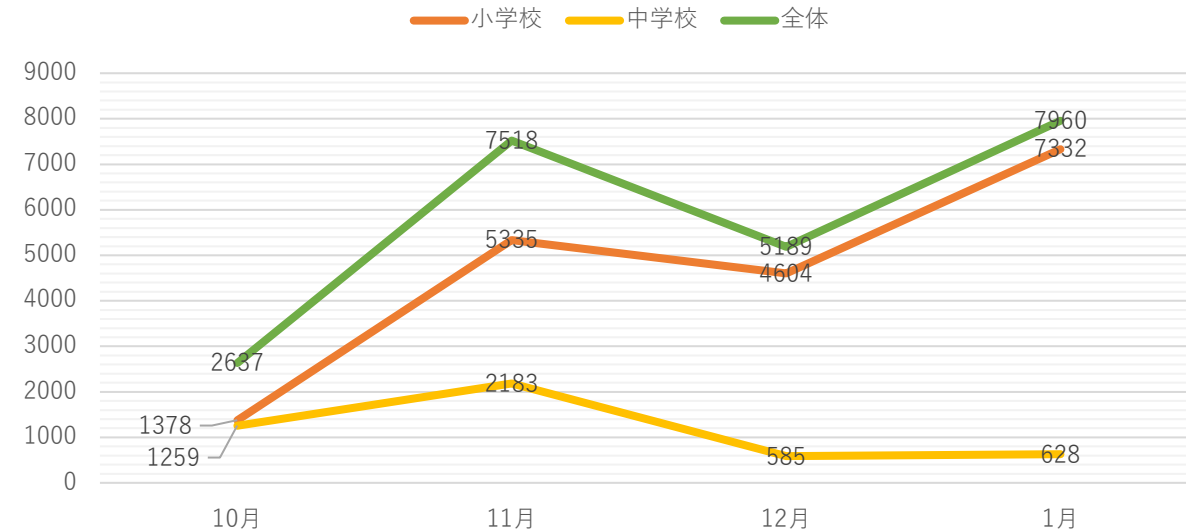
「飯田」の地名は「結いの田」が語源となっているとも言われ、伝統産業である「水引」に代表される「結び」に縁のある土地柄であり、行政、企業、市民で「結いの力」を発揮し、リニア時代を見据えた 21 世紀型の戦略的地域づくりを進め、それらによって人材サイクルの大きなウェーブを創り出し、豊かなライフスタイルを実現できる持続可能な地域経営を目指しています。

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

1. 個別最適化を支援する学びの環境構築による、全ての児童生徒への学習機会の提供（インタラクティブスタディ）

小学校の単元から中学校の単元まで全て入っているので、自分の関心や目標によって個別に課題を選ぶことができるため、意欲的に取り組み、小学校についてはアクセス数が順調に増加していった。しかし、中学校については期末テスト直前までは、アクセス数が増加したが、テスト終了後から減っていった。

個別学習アクセス数



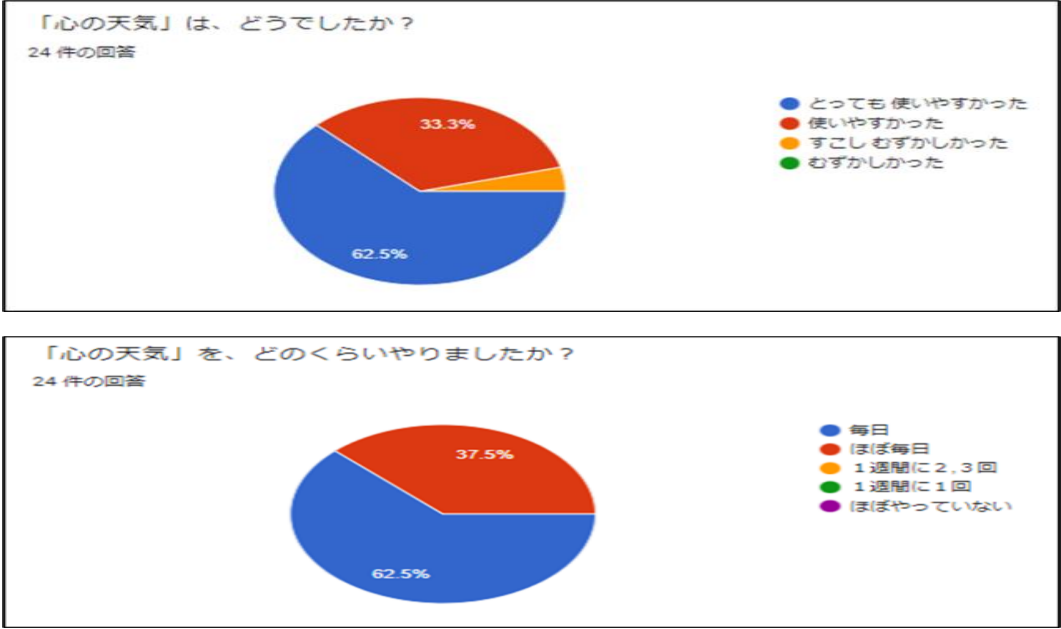
2. 双方向授業の導入による、クラス全員で協力しあう課題解決力・創造力の育成（スタディノート）

児童一人ひとりが書き込んだものを瞬時に共有できることで、友だちとの伝え合いを効率的に行うことができ、本時では時間的な余裕ができた。また、よりよい伝え方についても話し合うことができた。

問題を一斉に配信できることで、授業が効率的に進められるため、同じ資料を各端末に配信し、一斉に共有することで、導入がスムーズになった。

3. 自らを見つめ、コントロールする力（非認知能力）の向上による、学びに向かう力の育成（スクールライフノート）

「学校生活ウォッチャー」から、児童の心の天気を確認した。雨が Continuing いる子どもに対してフォローをしたり、普段の様子では分かりにくかった行事前の緊張や休み時間のトラブルなど、心の天気のコメントから分かることで対応したりすることができた。また、感染症対策のための休校措置に伴い、毎朝の心の天気入力を家庭学習の課題としたことで、児童も、友達の様子を知ることができたり、教師側からのコメントがあることなどから、以前よりも詳しくコメントを書いたりする姿が増えてきた。



（鼎小学校 5年生 24名アンケート結果）

4. 自分自身を客観視するメタ認知の育成を図り、自らの行動を変容させ「学びに向かう力」の育成（インタラクティブスタディ）

システムで取得できるアクセスログから「月次レポート」を提出した。活用有無などの状況を把握し、学校・学年の差異などに差がないかなどを確認を行った。また、誤答率の高いつまずき傾向を提供することにより、授業改善のデータとして活用した。

教科	教材名	誤答パターン	誤答人数	学習人数	割合
算数	がい数	「～の位で四捨五入をする」場合に、四捨五入をする位を間違えてしまう	105	225	46.7%

「■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等」

1. インタラクティブスタディ

☒ 児童、生徒のコメント ☐ 教師のコメント

- ☒ 終了のしるしが増えるのがうれしい。
- ☒ 自分のペースで好きな単元ができるから楽しい。
- ☐ 一覧で児童の出来具合を見られたり、個人の点数や問題の出来具合を把握して指導に生かされるので使いやすい。
- ☐ 小学校の単元から中学校の単元まで全て入っているので、自分の関心や目標によって個別に課題を選ぶことができるため、意欲的に取り組みやすい。
- ☐ 学級で一斉に取り組むことも、一人ひとり別の課題に取り組むこともできるため、教師の指導方針で使い方の可能性が広げることができそう。

2. スタディノート

- ☒ 友達の考え（意見）が見られて面白い
- ☒ 自分のが見られてちょっとはずかしい
- ☒ 自分でクラスルームから資料を選ばなくていいから楽
- ☐ 児童一人ひとりが書き込んだものを瞬時に共有できることで、友だちとの伝え合いを効率的に行うことができる。 本時では時間的な余裕ができ、よりよい伝え方についても話し合うことができた。
- ☐ 問題を一斉に配信できることで、授業が効率的に進められる。
- ☐ 同じ資料を各端末に配信し、一斉に共有できることで、導入がスムーズになる。

「■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等」

3. ロボホン+プログラミングツール

○児童、生徒のコメント □教師のコメント

- （しゃべらせる言葉の入力時は）句読点をつけないと、わかりづらい発音になってしまうから今度は気をつけたい。
- 動作としゃべるのを組み合わせるのが難しかったけど、どういうふうによればいいのか考えてできた。
- 今からの時代、こういうプログラミングなどが増えてきて、どんどんインターネット化が進みぼくたちもそれができて当たり前になるかもしれないから、プログラミングの貴重な授業ができてよかったです。
- ブロック型のプログラムは入力も楽で、操作も子どもたちに適していた。
- 自分なりに「～させたい」⇒「こうプログラムしよう」という姿も見られた。
- 夢中になると時間が過ぎるのが早い。計画的にカリキュラムに位置づけて、
本時のねらいを明確にして行うことでプログラミングの大事さや、面白さが学べると感じた。

4. スクールライフノート

- 「一言」を書けるのがとても便利だったと思います。しかも、(☀️🌧️🌀⚡️)で自分の気持ちを表せれるので使いやすいし、
分かりやすいと思います。
- 心の様子を天気で表すことで、学校生活ウォッチャーから一目で様子が分かる点が良かった。
- 学習ノートにも、心の天気のように教師からのコメントができると良いと思った。

■ EdTech ツールの導入・運用における課題とその改善策

1. インタラクティブスタディ

- ・宿題として家庭でつなげようとしたときにうまくつながらない子がクラスで4, 5人あった。

2. スタディノート

- ・他のソフト（クラウド上の）と比べ、かなり動作が遅く、その点は使いにくさを感じた。

3. ロボホン＋プログラミングツール

- ・夢中になると時間が過ぎるのが早い。計画的にカリキュラムに位置づけて、本時のねらいを明確にして行うことでプログラミングの大事さや、面白さが学べると感じた。

4. スクールライフノート

本来、「心の天気」は担任のみが見られる（他人から見られない）という設定のため、児童が素直な気持ちを入力することができる。今回の学習ノートを活用した「心の天気」では、天気やコメントの共有が可能になってしまうため、もしかすると本心は書きにくくなっているのかもしれない。困ったことなどの本心が書ける「心の天気」と、みんなの様子が分かる「学習ノートを活用した心の天気」を、場面や用途によって上手く使い分けていく必要があると感じる。

■ 会社概要内容（シャープマーケティングジャパン株式会社）

- ・ 会社名 シャープマーケティングジャパン株式会社 ビジネスソリューション社
- ・ 代表者 山崎 公人
- ・ 所在地 千葉県美浜区中瀬一丁目9番地の2
- ・ 創業 1977年3月28日
- ・ 資本金 16億38百万円
- ・ 従業員数 1,800名
- ・ 事業内容
 - ・ システム機器、業務用ディスプレイ、ドキュメント機器、医療機器、オフィスサプライ品等の販売事業
 - ・ コンサルティング、システム企画・開発・構築・サポートに至るトータルソリューション事業
 - ・ システム機器、業務用ディスプレイ、ドキュメント機器、医療機器等のサポートサービス事業
 - ・ ホームページ <https://smj.jp.sharp/bs/education/>
- ・ 問い合わせ先 会社ホームページ上部「お問い合わせ」の問合せフォームよりご連絡ください



■ 会社概要概要（株式会社 EDUCOM）

- ・ 会社名 株式会社EDUCOM
- ・ 代表者 柳瀬 貴夫 代表取締役CEO（最高経営責任者）
- ・ 所在地 愛知本社 愛知県春日井市如意申町7-7-5
東京本社 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング
- ・ 創業 1989（平成元）年4月
- ・ 資本金 3300万円
- ・ 従業員数 257名（2021年7月時点）
- ・ 事業内容
 - 1 パーソナルコンピューター通信、情報通信システムの設計、企画、施工
 - 2 コンピューターとその関連機器及びソフトウェアの開発、販売並びに情報処理・提供に関する事業
 - 3 パーソナルコンピューターのソフトウェアの保守、管理並びに技術の指導業務
 - 4 コンピューター技術教室、文化教室の経営
 - 5 コンピューターのプログラムの作成
 - 6 コンピューターのソフトウェア設計・プログラム開発及び技術提供並びに保守に関する業務
 - 7 地図データベース、その他データベースの作成・販売、コンピューターによる処理業務
 - 8 コンピューターシステムを利用した情報ネットワークによる情報処理並びに情報提供業務
 - 9 上記各号に付帯関連する一切の業務
- ・ ホームページ <https://www.educom.co.jp/>
- ・ 問い合わせ先 会社ホームページ上部「資料請求」の問合せフォームよりご連絡ください

